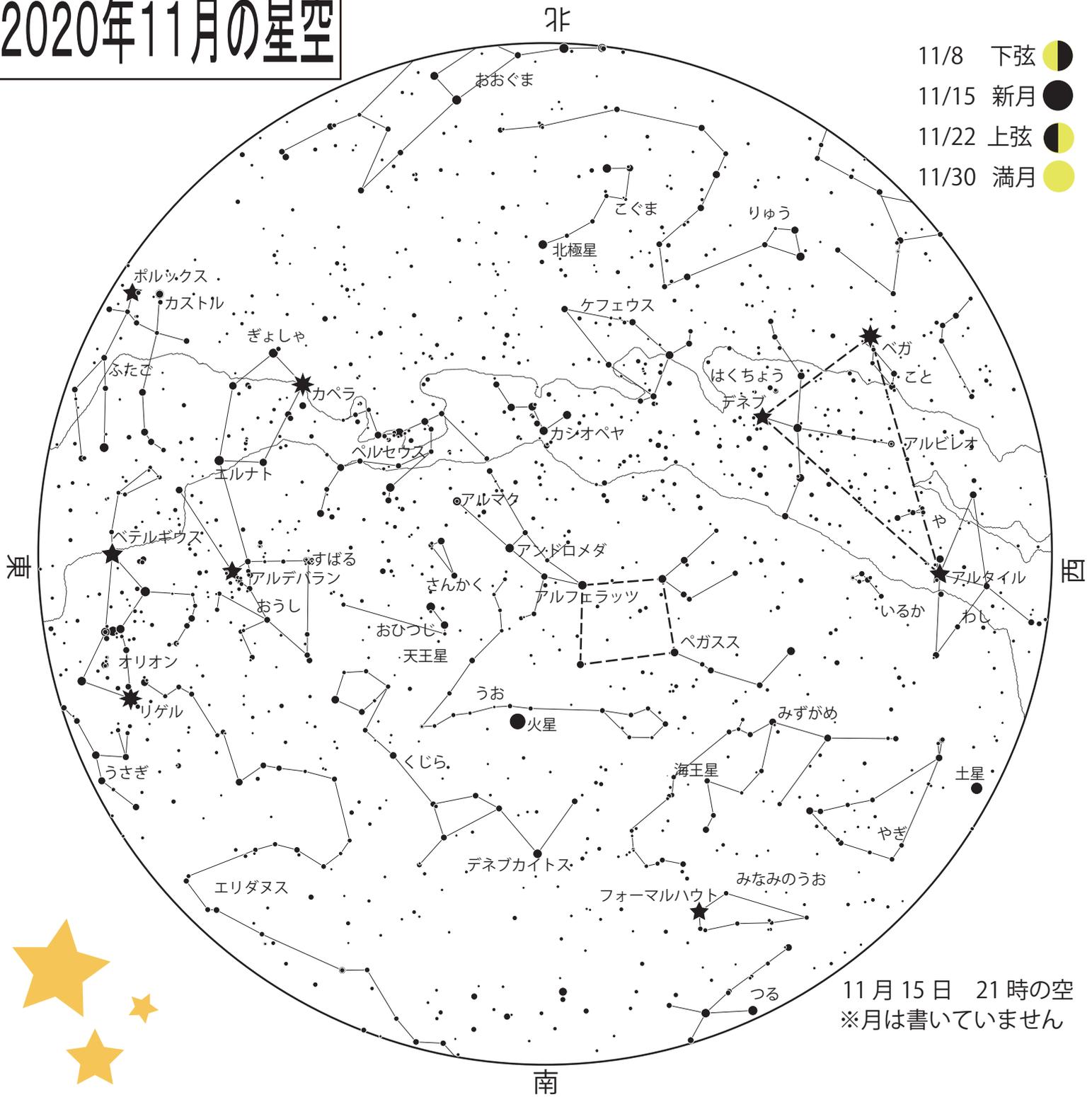


# 姫路で見る 2020年11月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。  
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 11/8 下弦 
- 11/15 新月 
- 11/22 上弦 
- 11/30 満月 



11月15日 21時の空  
※月は書いていません

11月になると、日没が17時前後になるので、19時頃には空はすっかり暗くなります。西の方角には、夏の大三角形が見えます。3つの1等星は、こと座のべが、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブです。夏の夜空の目印「夏の大三角形」は年末頃まで見えます。一方、秋の夜空の目印は四角形で「秋の四角形」とよばれています。頭の上あたりに見えます。この秋の四角形は、ペガサス座という星座の一部でもあります。秋の夜空にはこのペガサスが登場する「エチオピア王家の物語」というお話にでてくる人たちが星座になっています。空気が澄んで星がよく見える季節になってきましたので、ぜひ夜空に秋の星座をさがしてみてください。

また、日の入り後の南の空には、土星が見えます。日没後すぐに夜空を見上げれば、土星の隣に木星も見えるかもしれません。土星と木星は、日没後、3時間以上見えます。

そして、火星も10月につづいて観察の好機です。10月6日に地球と火星が大接近して話題になりましたが、11月もまだ見えます。火星はこれからだんだん暗くなっていきますので、この機会にぜひ、南の夜空に火星もさがしてみてください。